DJ-P300　拡張版 取扱説明書

DJ-P300 特定小電力トランシーバーは多彩な機能を搭載しています。
本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない「通話モード」「セットモード」「拡張セットモード」の詳細について説明します。

1）通話モード

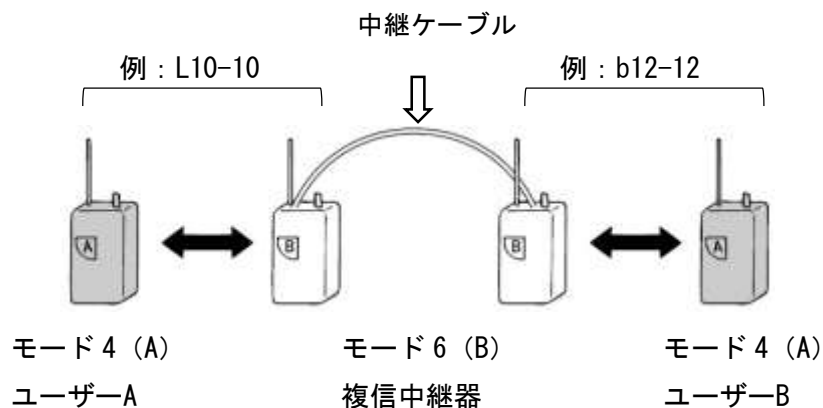
モード番号	通話方式	使用可能チャンネル	ページ
4	複信中継子機（PTT タイプ）	L10～18、b12～29	P.1～P.3
	複信中継子機（電話タイプ）	L10～18、b12～29	P.1～P.3
14	交互通話　TOP 短縮モード	A～H	P.4
15	同時通話　TOP 短縮モード	A～H	P.4
16	フリーチャンネル同時通話	自動切り替え	P.5～P.6

モード 0、1、2、9 については製品に付属の取扱説明書をご参照ください。

モード 4：複信中継子機（PTT タイプ）

直接では電波が届かない場所にいる相手と、中継器を介して同時通話をするモードです。
同時通話の方式には「PTT タイプ」と「電話タイプ」があります。初期状態は旧モデルで「強制モード」と呼んでいた PTT タイプです。
・PTT タイプ：[PTT] キーを押して送信します。（双方が好きなタイミングで送信できます。）
・電話タイプ：電話のように呼び出し音に応答する手順で通話をおこないます。

【設定概念図】

中継ケーブル
例：L10-10
例：b12-12
モード 4（A）
ユーザーA
モード 6（B）
複信中継器
モード 4（A）
ユーザーB

【設定上の注意】

・　複信中継器に設定した無線機 2 台をオプションの中継ケーブルで接続します。
複信中継器には弊社製 DJ-R200D、中継ケーブルには弊社オプションの ADUA-97 をご使用ください。
また、中継器の設定方法は DJ-R200D の拡張版取扱説明書をご参照下さい。
http://www.alinco.co.jp/division/electron/dl/DJ-R200D_complete.pdf

・　設定概念図のように、ユーザーA と B は異なるチャンネルとグループ番号に設定してください。
同じチャンネルに設定すると干渉して正しく動作しません。概念図は単なる例で、運用現場の電波環境によって安定して動作するチャンネル、グループ番号を探し、十分に動作確認をしてください。それぞれ近接するより大きく離れた番号のほうが原則的に干渉しにくくなります。

・　周波数帯設定は子機を A に設定した場合は、中継器を B に設定してください。子機を B にしたら中継器は A です。どちらを A にしたほうが良く飛ぶ、ということはありません。単純に設定の問題です。

・　同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）を使わないとハウリングが発生して通話できません。本機はねじ込み式のジャックを採用しています。プラグは止まるまで手でしっかりねじ込んでください。ペンチなど工具を使って無理に締め付けすぎると壊れます。

【子機の設定 / モード４ PTT】

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。
＊ダイヤルを回してモード 4 に設定します。4A とチャンネル、グループ番号が表示されます。
[PTT]キーを押して確定します。
＊ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
＊ダイヤルを 2 回押すとグループ番号が点滅します。点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。
＊［PTT］キーを押すと設定が終わります。
＊　必要があれば、周波数帯 4A を 4b に切り替えます。［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［フック（A/B)］キーを押すごとに A と b が切り替わります。

【PTT モードの呼び出し方】

本機に接続した外部マイクの［PTT］キーを押します。送 が点灯します。
外部マイクに向かって話します。[PTT]キーを放せば、交互通話のように通話できます。
同時通話をするには別のユーザーも[PTT]キーを押します。同時通話状態になると 送受 が点灯します。
＊通話を終了するときは外部マイクの［PTT］キーを押します。送信が停止し送 が消灯します。
本機の同時通話時の初期設定では、一度 PTT を押すと次にもう一度押すまで送信状態を維持する PTT ホールド機能が有効になっていますが、これをセットモードでオフにして、イヤホンマイクの機構的なキーロックを使うなど、カスタマイズもできます。
＊電波が途切れても送信を続けます。電波状態が回復すると自動的に通話できるようになります。
＊送信状態で電源を切っても、次に電源を入れると自動的に送信状態で起動します。故障の原因にはなりません。

【子機の設定 / モード4 電話】

電話のようにプルプル音で呼び出してから通話します。
PTT モードと同じ操作をして、グループ番号まで設定します。
＊［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［フック（A/B)］キーを約 2 秒間押します。
が点灯します。

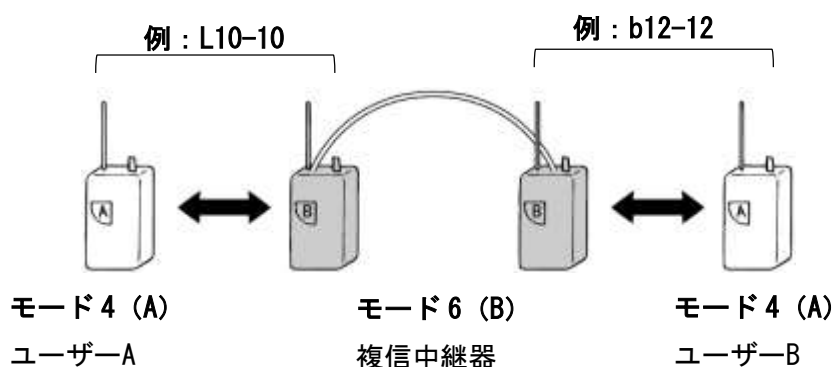
【電話モードの呼び出し方】

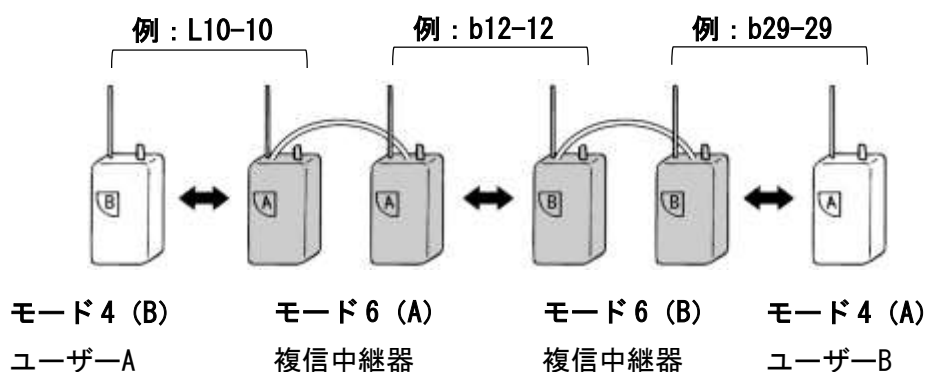
呼び出す人が外部マイクの［PTT］キーを押します。送 が点灯して、10 秒間呼び出し音が鳴ります。
この間に、相手からの返事を待ちます。呼び出す人は音が鳴っている間に外部マイクの［PTT］キーを押します。最初に PTT キーを押した人と同時通話になり、送受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。(発呼する人は、応答する人をあらかじめ指定することはできません。)
通話を終了するときは外部マイクの［PTT］キーを押します。
送信が停止し 送 が消灯します。
＊電波が途切れたら通話は終わります。改めて呼出し手順をします。

【中継器との接続例】

・奇数組の場合

下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。

【設定概念図】

・偶数組の場合

下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。

モード 14：交互通話の 10mW 疑似連続送信（タイムアウトペナルティ TOP 短縮モード）

特定小電力トランシーバーには、送信出力 10mW で使うとき、3 分間連続で送信すると自動的に受信に戻り、そのあと２秒以上経たないと再送信できない、規格上の「タイムアウト」制限の決まりがあります。
モード 14 では、あらかじめプログラムされた 2 つのチャンネルを、3 分制限に達する直前に自動で切り替えて、通常 2 秒間のタイムアウトペナルティ時間を約 0.5 秒に短縮して送信を継続します。これを繰り返すことで、疑似的なハイパワー連続送信ができます。
移動した先のチャンネルが別のユーザーに使われていないか確認する「キャリアセンス」をするので、この約 0.5 秒の休止時間が発生します。移動した側のチャンネルが使われていれば疑似連続送信にならないこともあります。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 14 を選び、[PTT] キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回して、全ユーザーが同じチャンネルに合わせます。
チャンネルは A～H の 8 通りがあり、チャンネル番号とグループ番号はあらかじめセットされています。
＊［PTT］キーを押すと送信が始まります。交互通話の要領で通話します。

モード 15：同時通話の 10mW 疑似連続通話 （タイムアウトペナルティ TOP 短縮モード）

モード１４同様の機能で、同時通話向けの設定です。

モード 15 の同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）が必要です。外部マイクを使用しないと原理上ハウリングが発生します。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 15 に設定、[PTT] キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回して A～H の 8 通りから１つチャンネルを選びます。チャンネル番号とグループ番号はあらかじめセットされています。

外部マイクの［PTT］キーを押して送信します。[PTT] キーは一度押して送信、もう一度押して受信待ち受けになります。信号を受信したら外部マイクの［PTT］キーを押して応答します。
双方が送信状態になれば同時通話ができます。双方がもう一度［PTT］キーを押すと通話が終わります。

※PTT キーの動作がこの通りでなければ、PTT ホールド機能を解除している、イヤホンマイク側の PTT ロックを使っている、などが考えられます。

移動した側のチャンネルが使われていれば疑似連続送信にならないこともあります。玉掛け作業など絶対に安定した連続通話が必要な時はご注意ください。

モード16：フリーチャンネル同時通話

あらかじめペアリングをした 2 台が自動的に空きチャンネルを探し同時通話をおこなうモードです。お使いになる前に通話をおこなう 2 台で「ペアリング」をおこなってください。一度ペアリングしておけば、以降はチャンネル設定や変更の手間が省けます。

【ペアリングの設定】

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。
＊ダイヤルを回してモード16に設定します。16と
初期状態の「no-Pr」（ノーペア）が表示されます。
[PTT]キーを押して確定します。
＊もう片方も同じようにモード16に設定して「no-Pr」の表示にします。
＊片方の機器の[PTT]キーを1回押すことで両方の機器がペアリングの準備状態になり「rdy-Pr」が表示されます。
＊ペアリング準備状態から10秒以内にもう片方の機器の[PTT]キーを1回押すことで両方の機器でペアリングが開始され「now-Pr」が表示されます。
＊ペアリングが完了すると自動的に再起動します。
＊再起動すると「SCn ○○」が表示されます。
○○には00～99までのペア番号が自動的に割り当てられます。ペアリングが完了すると両方の機器に同じペア番号が表示されます。

【ペアリングの注意】

・ペアリングをおこなう際は2台1組でおこなってください。3台以上でペアリングをおこなうと正しくペアリングできないことがあります。
・ペア番号はランダムで00～99の番号が割り当てられるので、まれに同じペア番号でペアリングする場合があります。その際は後述するペア番号の初期化を行い、再度ペアリングの設定をおこなってください。

【フリーチャンネル同時通話】

＊片方の機器に接続されている外部マイクの[PTT]キーを押して送信します。このとき空きチャンネルを自動で探しだし、空きチャンネルを見つけると送信され 送 が点灯して、使用しているチャンネルが表示されます。

＊もう片方の機器に 受 が表示され、受信音声が鳴っていることを確認して接続されている外部マイクの[PTT]キーを押します。
同時通話状態になると 送受 が点灯して、使用しているチャンネルが表示されます。
双方がもう一度［PTT］キーを押すと通話が終わります。

【フリーチャンネル同時通話の注意】

・同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）を使わないとハウリングが発生して通話できません。本機はねじ込み式のジャックを採用しています。プラグは止まるまで手でしっかりねじ込んでください。但しペンチなど工具を使って無理に締め付けすぎると壊れます。

・フルーチャンネル同時通話モードは待ち受け中でもバッテリーセーブが強制的に OFF 状態になり電池の消耗が大きくなります。

・同時通話の開始と応答のときはチャンネルをスキャンして空きチャンネルを探しているため、通常の同時通話より通話開始時の頭切れ時間が長くなります。

・スキャンするチャンネルの範囲はセットモード No.10 の送信出力設定によって決定されます。
チャンネルの範囲によって送信出力や連続通話の条件が変化します。

Pow-At：L10～L18、b12～b29 のチャンネル範囲をスキャン、10mW 出力で同時通話
Pow-Hi：L10～L18 のチャンネル範囲をスキャン、10mW 出力で同時通話
Pow-Lo：b12～b29 のチャンネル範囲をスキャン、1mW 出力で連続同時通話

【ペア番号の初期化】

ペア番号は簡易リセットもしくは完全リセットで初期化されます。また、他の設定を消さずにペア番号のみを初期化する方法は[ファンクション]キーを押し F 点灯中に[フック]キーを 3 秒以上押し続けます。初期化が開始されると「Pr ErASE」と表示し自動的に再起動されます。初期化が完了すると再起動後に NO ペア状態の「no-Pr」が表示されます。

２）製品説明書で説明していない標準セットモード項目について

※ セットモード No.1～No.15 は特に基本なので、操作方法は製品に付属する説明書に記載しています。

製品説明書ＰＤＦ：http://www.alinco.co.jp/division/electron/dl/DJ-R200D_complete.pdf

【セットモードの操作手順】［ファンクション］キーを押し F 点灯中にダイヤルを押します。

・ダイヤルを押すごとにセットモードの項目が切り替わります。

・［フック（A/B)］キーを押すと前項目に戻ります。

・ダイヤルを回して設定値を選択し［PTT］キーを押して設定を完了します。

・No.13 サウンドで「Gdc」「ALL」を選択していると、各セットモードの番号を音声でお知らせします。

※押す回数､はセットモードに入って CH-uoL 表示からダイヤルを押し下げる回数です。

No.	メニュー	表示	選択項目	初期値	※押す回数
1	CH/VOL リバース	CH-voL	CH-voL/voL-CH	CH-voL	－
2	コンパンダー	oFF ComPnd	on/oFF	on	1
3	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF	2
4	ループ（第三者受信）	oFF AFLooP	on/oFF	oFF	3
5	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF	4
6	バッテリーセーブ	on1 bS	oFF/on1/on2/Eco	on1	5
7	オートパワーオフ	oFF APo	oFF/30/60/90/120	oFF	6
8	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5	7
9	PTT ホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At	8
10	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At	9
11	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF	10
12	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3	11
13	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp	12
14	エンドピー	oFF EndP	on/oFF	oFF	13
15	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF	14
16	ディスプレイ表示	modE	modE/SmEtEr/Cntdn/FrEq	modE	15
17	スケルチレベル	SqL 3	0～5	3	16
18	キーロック時間	Loc 2	1～3	2	17
19	メモリー表示	numbEr	numbEr/mode/no-mode	numbEr	18
20	音色変更	1 mELody	1～3	1	19
21	電池電圧参照	oo O.OO	-	-	20
22	LCD 消灯	on Lcd	on/oFF	on	21
23	外部音量変更	EvoL-H	L/H	H	22
24	イヤホン断線検知	on EAr-C	on/oFF	on	23

No.16　ディスプレイ表示　modE

ディスプレイのモード番号表示部に、モード番号以外のその他の情報を表示させることができます。

modE：通話モード番号を表示

SmEtEr：S/RF メーター表示　（縦棒で表示）

Cntdn：通話残り時間表示、１８０から１秒単位。３分タイムアウト計測用。

FrEq：チャンネル番号の代わりに周波数を MHz 単位で表示。422.200=422.200MHz

No.17　スケルチレベル　SqL 3

スケルチのレベルを 0～5 の範囲で調整します。待ち受け時に鳴る「ザー」という雑音を消す機能で、ゼロで開放（ザーが鳴りっぱなし）です。ザーが鳴らなくなった数字の１つ上あたりに設定します。大きくし過ぎるとノイズでスケルチが開くことが減る分、弱い信号は聞こえなくなります。電波環境でレベルが変わることがあるので微調整できるようになっています。

No.18　キーロック時間　Loc 2

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定します。時間を長くすればキーロック設定の誤操作が少なくなります。

No.19　メモリー表示　numbEr

メモリーチャンネル運用時の表示方法を変更する機能です。

number：メモリーチャンネル番号表示

mode：モード番号表示

no-mode：メモリーチャンネル番号とモードの同時表示

No.20　音色変更　1 mELody

モード 2、モード 4 の同時通話電話タイプの呼び出し音、着信音、ベル機能の音色が変えられます。

モニターボタンを押すと音色が確認できます。

No.21　電池電圧参照　t3 または Li-数字

電池のタイプと電圧を表示します。「t3」は単三形電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。外部電源端子から電圧が供給されているときは「FULL」を示します。

表示は目安で、個体のばらつきもあります。電池が切れるときの数値を覚えておくと、より精度の高い減電池表示として使えます。

No.22　LCD 消灯　on Lcd

送受信中にディスプレイ表示を消灯する機能です。液晶が発するノイズが原因で送受信音に雑音が入ることがあり、ON にするとノイズ対策に有効な場合があります。

No.23　外部音量変更　EvoL-H

外部出力端子へイヤホンなどを接続して使用する際、音量が大きい場合には L 設定にして全体的にボリュームを下げることができます。スピーカーマイクで大きな音を鳴らしたい時は H 設定にします。

No.24　イヤホン断線検知　on EAr-C

本機は起動時に自動的にイヤホン断線検知をおこないます。インピーダンスが高いなど、外部出力端子へ接続する機器によってはまれに断線検知が誤動作することもあり、OFF が選べるようになっています。

３）拡張セットモード

本機には、普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を拡張セットモードに持たせています。通常の設定項目にしなければならないほどには頻繁に使われない上、意味が分かってお使いいただかないと電池を早く消費したり、表示が変わったり、一部の機能が使用できなくなるなど「故障かな？」と思うような動作をするので、拡張操作をしないと使えないようにしています。内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法も敢えてこの説明書の最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモード項目の後ろに続けて表示されます。

ユーザーが誤って管理者設定を変更するリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、完全リセットをしないと初期化されないようになっています。

No.	メニュー	初期表示	選択項目	初期値
25	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4
26	デュアルオペレーション再開時間	5 duAL-t	1～5(秒)	5
27	別売アクセサリーの PTT 対応	ALL inSptt	oFF/out/ALL	ALL
28	秘話周波数	34 Scr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34
29	秘話エンファシス	on EmPHA	on/oFF	on
30	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF
31	グループトーク TSQ/DCS	ton GrouP	ton/Cd1/Cd2	ton
32	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1 秒）	10
33	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL
34	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2
35	AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL
36	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24（×-1dB、 3dB Step）	6
37	通話圏内確認	oFF ArEA-C	on/oFF	oFF
38	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	on/oFF	on
39	フックキー割り当て	Hoo Hoobtn	Hoo/vLO	Hoo
40	レストア	oFF rESto	oFF/SAv/Lod/dEt	oFF
41	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on

No.25　マイクゲイン　4 m-GAin

通話時の癖やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。他社製のマイクをお使いになる時もレベル調整が必要になる場合があります。設定を間違うと声が小さくなったり歪んだりしますのでご注意ください。

No.26　デュアルオペレーション再開時間　5 duAL-t

デュアルオペレーションモードで通話が終わり、交互受信が再開するまでの時間を変更できます。通常は通話終了から 5 秒経過後に再開されますが、このタイミングを短くできます。

No.27　別売アクセサリーのPTT対応　ALL inSptt

4極プラグのオプションイヤホン、スピーカーマイク等を使うときに、本機PTTと本機マイクの有効／無効を選べます。使用するアクセサリーに合わせて設定してください。

oFF　：本機PTT無効・本機マイク無効（オプションのPTTとマイクのみ有効）
out　：本機PTT有効・本機マイク無効（マイクは外部マイクのみ有効、PTTは両方が有効）
ALL　：本機PTT有効・本機マイク有効（イヤホンだけを使うときの設定）

※ out、ALLでスピーカーマイクを使うとき、本機PTTを押しても送信できません。スピーカーマイクのPTTを押して送信してください。

No.28　秘話周波数　34 Scr-Fq

秘話のキャリア周波数を設定します。初期値と異なるキャリア周波数を使うときは、通話したいグループ全員の設定を同じ値に揃えて変更してください。

No.29　秘話エンファシス　on EmPHA

弊社の秘話搭載特定小電力トランシーバーや他メーカの秘話搭載特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって通話の相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えることによって改善される場合がありますのでお試しください。

No.30　減電池アラーム（アラーム間隔）oFF bAtt-C

電池の電圧が低下するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、減電池をお知らせします。このとき設定時間ごとに1回、電池が減っていることを音で知らせることができます。お知らせ音は設定や電池の種類によって異なります。電池が減っている状態で音を鳴らしてお知らせするため、間隔を短く設定するほど早く電池が切れてしまいます。

セットモード No.13 サウンドが「bp」の場合
　→アラームで「ププッ」音が鳴ります

セットモード No.13 サウンドが「GdC」「ALL」でEBP-60を入れている場合
　→音声で「充電して下さい」が鳴ります

セットモード No.13 サウンドが「GdC」「ALL」で乾電池を入れている場合
　→音声で「電池を交換して下さい」が鳴ります

No.31　グループトーク・モード（TSQ/DCS）　ton GrouP

本機のグループトーク機能は一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えをCd1、Cd2に設定し、通常のグループトークと同様に通常画面で GROUP キーを押すことで DCS 番号を設定できます。グループ番号の変更はトーンスケルチと同様、ダイヤルを 2 回押した後ダイヤルを回してください。Cd1、Cd2 設定によって変更できるグループのコード数と表示が選べます。

Cd1：01～83 の 83 通りのコード番号から選択（待ち受け時「_〇〇」とコード番号を表示）
Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択
（待ち受け時「_Cd」と表示され、変更時に「Cd_〇〇〇」とコードを表示）

※3 者同時通話、同時通話、連結中継通話、連続通話はグループトーク設定をすることはできません。

No.32　VOX ディレイ時間 10 vod-t
VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間、送信状態を保持するので息継ぎしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、息継ぎなどですぐ送信が落ちることもあり、実験して確かめてからお使いください。

No.33　チャンネル表示　AL CHdiSP
本機のチャンネルは L01～L09、b01～b11 と表示されます。noL に変更すると他社製無線機の 01～20 方式に変更することができます。

AL	noL
L01～L09	12～20
b01～b11	01～11
L10～L18（中継，同時）	19～27（中継，同時）
b12～b29（中継，同時）	01～18（中継，同時）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を noL または AL にしてください。

No.34　グループトーク判別精度　2 mG-ton
※重要：３者同時通話をするときは必ず初期値の２にしてください。３者のトーンが正しく判定できないと、３者通話はできません。
グループトークでのトーンの判定精度を調整することができます。同じグループトーク番号に設定しているのにスケルチが開かない、ノイズでトーンが乱される、など障害がある時に有効です。１が最も厳しく、５が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、後述の、初期設定では動作するテールノイズキャンセル機能が働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の２は、かなり正確なトーン判定をします。

No.35　マイク AGC 切り替え　SL AGC
マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他機種と混用する場合、相性問題を解決できることがありますが、下手に設定を変えると逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質確認してください。

No.36　AGCターゲットレベル調整　06 AGC-tG

マイクAGC設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからお使いください。

No.37　通話圏内確認　oFF ArEA-C

グループトーク中に相手との通話が可能かどうかの目安を表示することができます。モード1でグループトーク機能設定（トーン、DCS）を入れた状態で通話圏内確認設定をONにしたとき、モード番号の右側に通信状態が表示されます。

「≡ 」点滅：圏内に通話できる相手が居るか、検索しています。
「C 」点灯：通話可能かどうか確認するための信号を送っています。

「≡ 」点灯：信号は強く良好な通話が可能。
「＝ 」点灯：信号は普通、おおむね良好な通話が可能。
「＿ 」点灯：通話が可能だが信号は弱く、途切れることがある。
「＿ 」点滅：相手が離れているか電源が切られているなどで、通話できない。

メモ）通話したいグループ全員の通話圏内確認をONにして同じグループ番号にしてください。約1分毎に一瞬ですが通話が可能か確認をするので、そのタイミングが別のユーザーのチェック動作と重なると正しく判断できなくなります。これを防ぐため、この機能を使うときは電源を入れるタイミングを全員少しずつずらせてください。また、3人以上のグループで使用する際は、圏内判定が正確に表示されない場合がありますが、この表示が実際の通話の距離や音質に影響することはありません。

No.38　テールノイズキャンセル　on tAiLnC

本機はグループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信状態から待ち受け状態になるときの「ザッ」というノイズ音）を除去するテールノイズキャンセル機能が入っています。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方で有効にしたときのみ動作します。
この機能が入っていないトランシーバーと通話するとき、この設定を変える必要はありませんがテールノイズは聞こえてしまいます。

No.39 フックキー割り当て　Hoo Hoobtn

本機の［フック（A/B)］キーは初期状態では同時通話モード電話タイプでの呼出・応答、デュアルオペレーションのサブチャンネルPTT、ペア番号の初期化に割り当てていますが、別の機能に変更できます。

vLO：受信音声ミュート

受信音声をミュート（消音）させたい場合に選びます。［フック（A/B)］キーを1回押すと受信音声が止まり、ダイヤル操作より手軽に受信音をミュートすることができます。ミュート状態を解除するには［フック（A/B)］キーをもう一度押すか、ダイヤル操作で音量を変更します。

No.40 レストア　oFF rESto
チャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報をリセットしても消えないように記憶させ、復元させる機能です。リセット後の面倒な設定やり直しをせずに済みます。

＊本体を記憶させたい状態に設定します。ダイヤルを回して Sau/Lod/dEt を選びます。
SAv: [グループ]キーを 2 秒押し続けるとチャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報が保存され「rSt writE」を表示します。新しい設定を記憶するときは、この操作を繰り返せば上書きできます。
Lod: [グループ]キーを 2 秒押し続けると保存した情報を復元します。復元が終わると「rSt rEAd」が表示され、自動的に再起動します。何も保存されていない場合、「rSt nodAtA」が表示され読み出しがキャンセルされます。
dEt: [グループ]キーを 2 秒押し続けると記憶させた情報を消去します。終わると「rSt ErASE」が表示されます。完全に工場出荷状態まで戻す時は、消去してからオールリセットしてください。

No.41 減電池スリープ　on bt-SLP
スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると自動的に電源を切ります。それでも待機電流は発生しているので、バッテリーパックは取りだして保管してください。OFF にすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差はありません。通常は on でお使いください。

［拡張セットモードへの切り替え］

１：キーロックを掛けます。（２つあるうちの、どちらの方法でも同じです。）
２：10 秒以内に[グループ]キーを５回連続で押します。キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープが鳴り、自動的にキーロックが解除されます。
３：セットモードに入ると拡張セットモードメニューが追加されています。
＊ 変更した値を保存して拡張セットモードメニューを隠すには、上記１～３の操作を繰り返します。
＊ チャンネルや通常のセットモードで設定したパラメータも含め、全てを工場出荷状態まで初期化するには、完全リセットを行ってください。

【完全リセット】

電源を切った後[ファンクション]キーとダイヤルを押した状態で電源を入れます。全てのセットモードの内容と登録済みのメモリーがリセットされ、工場出荷状態に戻ります。

レストア機能を使ったときは、セットモード No.40 の rESto メニューで dEt 操作をしてデータを消去しないと完全な出荷状態になりません。

以上
アルインコ（株）電子事業部